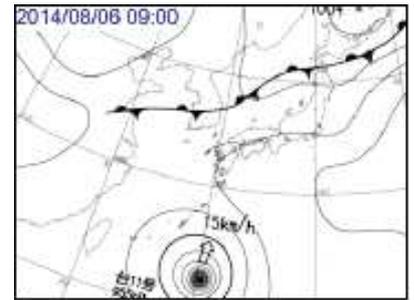
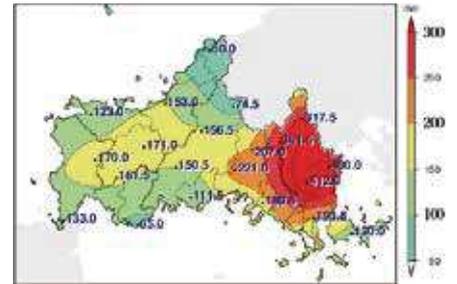




岩国市新港



天気図(8月6日09時)



総降水量分布図



岩国市関戸



和木町瀬田



和木町瀬田

気象の概要	<ul style="list-style-type: none"> 山口県では、8月1日から4日にかけて、台風第12号や台風から変わった熱帯低気圧の影響で暖かく湿った空気の流れ込みが続いた。 8月5日から6日にかけて、日本の南にある台風第11号や高気圧周辺部からの暖かく湿った空気が流れ込んだため、大気の状態が非常に不安定となり、山口県東部を中心に発達した雨雲が停滞したため猛烈な雨となった。 					
	総降水量(mm)	412.0(玖珂)	日降水量(mm)	217.0(岩国)	1時間降水量(mm)	71.0(岩国)
被災場所	県東部					
被害の規模	(人的被害)死者2人、重傷者3人、軽傷者1人 (住家被害)全壊10棟、半壊190棟、一部破損1棟、床上浸水11棟、床下浸水265棟 (その他被害)道路41ヶ所、河川75ヶ所 など <被害額総計>約19億円					
被害の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 岩国市では6日05時51分までの1時間降水量は71.0mmの観測史上1位を記録し、6日05時50分までの3時間降水量では8月の月降水量の平年値(127.2mm)を上回る156.0mmの観測史上1位を記録する大雨となり、複数箇所で土砂災害が発生し、住宅地が被害を受けた。 					



いわくにしくが
岩国市玖珂で71.0 mm の1時間降水量、156.0 mm の3時間降水量を観測し、土
しゃさいがい
砂災害が発生したんだ。

自分達の住む市や町で過去にどのような災害があったのか、そのときの降水量がどれくらいあったのかを確認しておくことはとても重要なんだ。

体験談

『あたり一面泥の海～あつという間に床上浸水～』 和木町 男性 消防団員

私が消防団に入って20年経ちますが、このような大雨は初めての経験でした。

6時くらいの一番雨がひどい時に、家の横の坂根川から水があふれているのを見て恐怖を覚えました。その時はまだ、消防団も召集はかかっておらず、下が浸水しているという情報はありませんでした。

11時に現地対策本部が設置され、消防団の招集がかかりました。召集されて初めて現地を見ました。あたり一面浸水していて、何をしたらよいか分からず、見ているしかありませんでした。水害の恐ろしさ、何も出来ない無力さを感じました。

召集された消防団員から情報が集まり、だんだんと状況が分かってきました。早朝だったため、皆さん自宅にいて、100戸近く孤立していました。皆さん2階に避難されたそうですが、あつという間に床上まで水が来たそうです。

まずは、大型のボートで、孤立した人、一人で住んでいる高齢者などの救助を行い、だんだんと水が引いてくると、小さなボートを使って、各家庭に水を配布しました。

午後2時半くらいになって、道路が見えるまで水が引いたので、直ぐに道路の復旧を始めました。流されてきた土砂や、流されて道路をふさいでいた車、家の中から出された家財などを道路の脇に寄せ、とにかく道路が通れるようしました。道路が通れるようになると、次はポンプ車で道路の清掃、いたるところにある泥を洗い流しました。泥は乾くと粉塵となるので、急ぐ必要がありました。

山が崩れたすぐ下に住んでいる方から「浸水はしなかったけれども、山は崩れて水が来たから、身の危険を感じて、職場まで直ぐに逃げた。」というのを後から聞いて、この辺の人たちは私とは比べ物にならない程の恐怖を感じたんだと思います。



和木町瀬田

体験談

『災害は「まさか」ではなく「もしかしたら」～事前の備えが大切～』 岩国市 男性 自治会長



岩国市新港

前の日から集中豪雨のように雨が降って、深夜12時過ぎてからだんだん雨の降りがひどくなりました。3時頃だったと思いますが、バケツをひっくり返したような雨が降っていて、これは危ないと思いました。

そうするうちに、3時半頃だと思いますが、1度目の山崩れが起きました。新港川に向かって山が崩れました。大きな岩がごろごろと流れていくのを見た川沿いの人から「これは逃げんといけんと思ったけれど、あれだけの雨の降りだと、外に出るのも危ないので、じっと我慢とった。」と後で言われました。でも、雨音で何も聞こえなくて、

私はそんな状態だというのが分かりませんでした。

そして、2度目の山崩れが5時50分ぐらいに起きました。一瞬でした。ドカーッと家が揺れたものからです。飛び起きて外を見ると、上にある家が崩れてその埃がプワーッと舞っていました。上に上ってみると2階建ての家がなくなっていました。上の家に1人若い人がいて、その時居たのかは分からなかったけれど、警察に状況だけは知らせようと思って電話しました。また、土砂が線路まで流れていたから、JRにも電話しました。

山崩れになるとは、私も住んでいる人の誰もが思わなかったです。ここはそのような谷じゃないと思っていたからびっくりしました。平成19年にこの地区で自主防災を立ち上げています。災害はいつ発生するのかわからないから、早く進めないといけないということで、何があっても対処できるようにしようじゃないかと、今話し合いを進めています。